

市長	副市長	収入役	部長	課長	参事	課長補佐	係長	記録

【所属名：市民部環境生活課市民生活係】
【会議名：男女共同参画推進委員会】

開示
 一部開示 (理由: 条例第7条第2号 該当)
 不開示
 時限不開示 (開示: 年 月 日)

第5回糸魚川市男女共同参画推進委員会会議録

(令和3年度)

日	令和4年2月17日	時間	13:30~15:10	場所	糸魚川市民図書館3階視聴覚室
件名	次第 別紙資料のとおり				
出席者	【出席者】 8人 (以下敬称略) 推進委員：水嶋聡、金子浩子、岩崎千穂、小田島道子、加藤朋子、渡邊誠司、牧江龍郎 室川和代 【欠席者】 2人 丸田賢龍、長谷川仁基 【事務局】 環境生活課 猪又課長、蒲原課長補佐、大矢主事				
	傍聴者定員	3人		傍聴者数	人

会議要旨

- 1 開会 (13:30~13:31)
 - 2 環境生活課長挨拶 (13:31~13:34)
 - 3 議事 (13:34~14:44)
- (1)第3次いといがわ男女共同参画プラン (案) について・・・【資料No.1-1】
パブリックコメント等意見反映状況・・・【資料No.1-2】
- (2)第3次いといがわ男女共同参画プランについて (答申) (案) について・・・【資料No.2】

【委員からの意見】

◆プラン (案) について

(委員) 本日市内の学校であった話だが、某保育園でコロナが出たため、10時には子どもを迎えに来てもらいたい旨の電話を受け、保護者の方々は何の躊躇いもなく、女性が迎えにいった。これが本当に「男女平等」と言えるのかと思った。「お母さんがお迎えに行く」のは当たり前という状況ができている。私たちがこの計画を策定する時に、将来的に男女共同参画が広がっていくように、と意見交換してきたと思うが、計画の25ページの「非正規雇用を選んだ理由」にあるように「仕事と家庭の両立がしやすいから」というのが現実だなと感じている。未来を見据えての策定計画なので、これで良いと思うが、今日の出来事を受け、計画に打ち出された施策で本当に世の中や糸魚川市が変わっていくのだろうか、という懸念を感じた。

- (委員) やはり緊急連絡先として登録されているのは母親の方が多く感じる。
- (委員) その学校は職員が18～19人おり、そのうち3人が連絡を受けて子どもを迎えに行った。給食員等がいなくなると、ただでさえ少ない人数での運営がさらに厳しい状況になる。今日はなんとかうまく調整ができたようだが、これが本当に「意識が平等」なのだろうかと思えつづけた。
- (委員) 私のところはほとんどが女性職員なので、お子さんの関係で急に休まれるとなると、やりくりして休んでもらうしかない。最悪、利用者さんの時間を変更してもらおうとか、曜日を変えてもらうまでしてもらわないといけない時もある。中には長期に休みを取らなくては行けなくなると「明日は夫が休んで、子どもを見てくれるから」という方もいるが、急な時の対応はやはり「母親」である。
- (委員) やはり立場が一緒ではない。男性は相手の立場に立っていない。女の人も男の人の立場に立っていないのかもしれませんが、相手の立場に立てるといえるのが出発点なのだと思います。
- (委員) 子どもからしてみれば（お父さんが迎えに来て）「あれ、なんでお父さんなの？」と思うかもしれない。それは幼少期からお母さんが子どもさんと接しているからというところもあるのでしょうか。
- (委員) 急な時だけでなく、普段から同じぐらいの分量で子どもさんを見ていないと、実際に任せるとなった時に、お母さん側が段取りして、お父さんに任せるということになるので、結局は自分の時間を使って段取りしてお父さんをお願いするパターンが多く、お父さんが休むとなった場合でもそうになってしまう。その段取りをしなくても「よろしく！」だけで済むなら、急な連絡でもお父さんが対応できると思う。普段から保険証がどこにあるとか全部分かっていらっしゃるお父さんなら「病院の付き添いよろしくね」だけで通じれば良いのでしょうか、やり方を説明するところからだと「私が行くわ」となる。
- (委員) 違うところでそういった話を聞いた時に、例えば私が洗濯物をたたんでいたりすると妻が「ありがとう」と言ったりとか「お願いね」と言う。それはもうその時点で差別があるのだということになる。「ありがとう」「お願い」と言うのは『本来自分がやらなければならない』と思い込んでいるということである。こちら意識しないで「はいはい、どういたしまして」と言ってしまう。
- (委員長) 全体を通して、意見としては具体的な意見に対して、プランの方は抽象的な意見になっているので、相関が分かりにくいところもあるが、確かにプランなので、逆に具体化してしまうと、それに縛られてしまうこともあるので、抽象的に書くのは仕方ないことだと思う。具体的に出てきた意見はフォローできるような形をとってもらえれば非常に良い。
- その他、全体を通してご意見ありませんか。
- (委員) ここ1～2年、幼稚園から小学校くらいのお子さんを連れて「お父さん」が、土日に市内のプールに泳ぎに来る様子が増えているように感じる。これから若いお父さんたちがお母さんと男女で近い・差のない子育てをもっと進めてくれれば良いと思う。

また、やっている仕事は男女平等でも、私生活では男女平等の感覚がなく過ごしているところもある。仕事は男女で共同参画していても、それ以外の意識が全然違うという場合が、私の場合はあった。

家庭で男女平等があれば、職場で男女平等でないことを不思議に思い、逆に職場で男女平等だったら、家庭で男女平等でないことに疑問を持つと思うので、どちらが先でも良いが、どちらかが男女平等を自然に受け入れる体制があつて、仕事以外の私生活も男女平等の考えに染まってくる家庭が一つ一つ増えていくと良いと思う。あともう一つ DV に関して、私は「DV は遺伝する」と思っている。遺伝と言っても DNA の問題ではないが、やはり暴力を受けたり見たりしていると、大人になった時に同じような環境で、フラッシュバックして出てくると思う。軽い PTSD (心的外傷後ストレス障害) の状態を、目の前の暴力で体験すると、多かれ少なかれ出てくる。(体験が) ない人よりも、とても出てくるので、ご家庭で何世代もかけて、どこかで断ち切る努力がないと、傾向として続きやすい。そうかと言って、暴力を振るう親が、悪くないというわけではない。その人もおじいちゃん・おばあちゃんに暴力を振るわれた経験があるから、そのまま伝承していった。でも、これは絶対伝承してはいけない、継承してはいけないことである。

あとは本人が「これは悪いことなのだ」「やられた自分は嫌だと思ったのだ」というところに戻れるか戻れないか。「自分は絶対に暴力を振るわない」と思っていたけど暴力を振るってしまったということにならないよう、断ち切っていかなければならないと思う。

ただ、お父さんと一緒に泳いでいる子ども達を見ていると、こういう中から、やさしい気持ちとか、良い思い出とかを持って大きくなってくれたら、その子たちはちよつとずつ変わっていくかなと思いつつ見守っている。

(委員) 今の時代、宇宙飛行士の募集も文系・理系両方取っている。やはり「文系」「理系」となると偏りが出る。その結果大学に進学して、数学の基本的な部分も習得してこないような女子が来たり、男子は全然本を読んでこなかったり、そのように偏った人たちはお互いを理解できない。職業の選択もすごく狭められている。今はそういう時代ではなくて、みんな機械がやってくれる、計算もコンピュータがやってくれるから算数なんてできなくても良い、と言ってしまえばそれまで。でも大学の先生は授業にならず、非常に危機感を覚えている。得意不得意はあるが、これからは基本的なことをきちっと押さえ、そしてそこから伸びていって、職業を選択していく体制が求められる。好みの違いで早い時期から文系・理系に分けないで欲しいと思う。中々複雑な問題だが、是非みんなに意識を持って欲しいと思う。

(委員) 今、大学も学部によっては文系半分・理系半分で取るようなところも増えてきている。委員がおっしゃるとおり、非常に危機感がある。今まで文系・理系での窓口しかやっていなかったいろんなところが、どんどん広がっていくし、文系の人もどんどん窓口が増えていくような大学になってきている。非常に良いことだと思う。

◆答申（案）について

（委員長）推進委員会の委員名簿をプランの中に掲載してもらえないか。

（事務局）今回委員会から答申するのは、第3章までとなる。答申を受けた後に、受け取った内容を踏まえて、市で最終的にプランを策定する際に、資料編を末尾につけて、成果品としての完成版になる。委員長がおっしゃる委員名簿、また、各種条例、策定の経過などはすべて資料編の方に掲載予定である。

また、3月2日に正副委員長から市長へ答申する予定となっている。

4 その他

・答申日は3月2日（水） 正副委員長出席

・【参考資料】相談窓口一覧（R4.1.31 現在）

（委員長）相談窓口一覧は今後、市のホームページなどに掲載されるか。

（事務局）もう少し整理して、4月からの掲載を予定している。

（副委員長）区分「青少年・子ども」の内容「言葉の問題、障害を持つ子どもの相談」のところにいろいろ通級が掲載されているが、糸魚川市立東中学校内に「難聴指導教室」があると思う。それを追加してもらいたい。

（事務局）承知しました。

【委員からの感想】

（委員）男女共同参画推進委員会に参加させてもらい、非常に実生活の中で意識するようになり、今まで意識していなかったところが改めて意識できるようになった。委員の皆さんから様々な意見をいただいて、気づくことが多く、私にとって非常に良い機会・経験になった。

（委員）職業上、どうしても建設業より、就職よりの内容を中心に話をさせてもらった。他の委員の方々の中にも建設業で女性の方が働かれていることを知らなかった方も多いと思うので、建設業の他にも警察や消防とかでも、やはり女性が活躍している場所があると思う。そういった男性社会だと思われているが、女性が頑張っている業種で何か中学校なり高校なりで広めることができれば良いかなと思う。また、就職に関して、今度糸魚川市でWebでの説明会を、新規学卒者もあるのだが、会社の名前は知っているけれども事業内容は知らない、逆に会社の名前は知らないけれどもどんな事業をしているのだろう、と。親御さんも今回は気軽にWebで参加ができるため、そういった中で今回チラシ・ポスターを作成して、いろんなところに掲示をしようと考えている。

（委員）いろんなお話を聞かせていただいて、自身の知識の無さと体験の無さを痛感したが、私もこの会の委員を受けてから、いろんなことを意識し始めて、自分も友人も周りの人たちも、男性で育休を取ったとか、会社の方もそういった対応が進んでいるということを実感する出来事も身近にあった。こういった活動が、地道ではあるが、確実に効果が出ていくのだろうと実感した。こういった話題が出てきたら、所属団体のメンバーとも進めていき、普及・効果が出るように運動していきたいと考えている。

（委員）今回、男女共同参画推進委員として、男女平等に関して、共同参画に関して、考え

てきたにも関わらず、ふと「女のくせに」「あなた男でしょ」という考えが、まだ全然消えなくて、やはりそれほど身に付いたものであると感じた。頭で考える男女平等と感覚的な男女平等がまだ分離している自分もいる。逆にこの会議に参加して、意識するようになった。これからも男女共同参画について考えていきたい。

(委員) 男女共同参画という言葉は聞いたことがあったが、その内容までは深く知らず、他の委員の方々が言うように勉強させてもらった。男女共同参画という言葉はまだ知らない人たちがまだたくさんいるので、そこから私も広めていければ良いなと思っている。私自身、男の方が主になって動くという時代に育ったため、なかなか自分の子ども達がどうなのかなと思うが、良い方向に変わっていったら良いなと思っている。

(委員) 立派なプランの策定にあたり皆さん本当にご苦労様でした。委員の皆さんは現役だが、私はとうに隠居の身で、行き違ったことを述べていたかもしれない、大変お世話になりました。

(委員) この推進委員会に参加して、普段のニュースに関心を寄せて見るようになった。様々な世代や立場の人の話を聞くことで、全国と比較して糸魚川が進んでいる面を発見することができたり、そうではない古い面もあったりと現状を知ることができてとても良かった。また、プランがせっかくできたので、自分たちの本当の日常に落とし込んでいかないと、男女共同参画は進んでいかないと。子どもの世代を見てみると、わりともう男女関係なく活発な意見を出し合っている姿を見ることがある。今後は希望が持てるかなと感じた。私もそういった風に子育てができるようにしていきたい。

(委員) この会を通じて本当に勉強になった。市内企業の活動も新たに知ることができた。データを示されて、例えば20～24歳くらいの女性が糸魚川から出て行ってしまい、仕事がないから戻ってこないのか、市外の大学・専門学校に行ってもそのまま就職するのか、全市の男女だけではなく、そういったことも勉強させてもらった。最近衝撃的だったことだが、小学校の新入学児童数で、糸魚川東小学校が48名、糸魚川小学校が41名となっており、二つの学校を合わせても100名に届かない状況となっている。これは市内に子どもを産み育てる若い女性たちが減ってきている。そういったところが、非常に衝撃的だった。やはり私たちが一所懸命に男女共同について考えているのに、これから先を担っていく女性も男性も減ってきている。市としてもテレワークの推進をしており、そういったことから人口流入を呼び起こせる画期的な施策を組み、子育て世代から喜ばれる自治体ランキングのようなものに入れるくらいの市になっていければ良いなと思う。

5 閉会